

(様式第1号)

平成29年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	平成30年2月19日(月) 15:00~17:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 佐々木 春美 副委員長 金本 ひとみ 委員 長谷川 栄子 委員 岡田 龍一 委員 野村 智子 委員 守上 三奈子 委員 中田 伊都子
欠席者	委員 成田 直美 委員 西野 悦子 委員 荒谷 芳生
事務局	社会教育部長 川原 智夏 生涯学習課長 茶嶋 奈美 生涯学習課係長 小山 慶子 生涯学習課 桂樹 良子 青少年育成課長 田中 徹 青少年育成課係長 山崎 元輝 青少年育成課 上田 裕之
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 平成29年度事業報告について

イ あしやキッズスクエアについて

ウ 平成30年度放課後子どもプラン事業について

エ その他

(3) 閉会

2 提出資料

(1) 【資料1】校庭開放・教室型事業について

(2) 【資料2】あしやキッズスクエアについて

(3)【資料3】平成30年度放課後子どもプラン事業について

3 審議内容

<佐々木委員長>

先ほど課長からありましたように、(1)と(2)を入れ替えるということでしたので、始めに議題(2)「あしやキッズスクエア事業について」事務局からお願いします。

<事務局：上田>

(配布資料：【資料2】に基づき説明)

<中田委員>

本日欠席されている西野委員から質問事項をお預かりしていますので、お伺いします。3学期に入り岩園小学校であしやキッズスクエアが開催され、子どもたちがとても楽しまれているということを知り、大変喜んでいらっしゃいました。ただ、説明会の時にキッズスクエアは居場所作りだとお聞きしていたにもかかわらず、体験プログラムが多くて、忙しすぎるのではないかというお話がありました。このことについては前々から他の開催校からも意見が出ていたようには思いますが、これからも増えていく予定なのでしょうか。

<青少年育成課 上田>

増えていく予定です。ただ、体験プログラムはイベントをたくさんすることが目的ではありません。居場所作りで何が大事かと言いますと、信頼のおける地域の方とたくさん出会えるということです。私たちは体験プログラムを通して、児童たちが地域の方々と出会えるきっかけになれば良いと考えています。スケジュールを見るとたくさんプログラムが入っているように見えますが、キッズスクエアを利用している累計4万人の児童のうち、プログラムに参加しているのは5,6千人です。私たちは体験プログラムに強制参加させるようなことはしていません。体験プログラムをすることで、居場所作りの選択肢が増えるようなイメージを持っていただけたらと思います。

<佐々木委員長>

体験プログラムはあくまでも強制参加ではないということですね。

<青少年育成課 上田>

はい。一日約30名の児童が参加している中で体験プログラムの平均参加人数は10名です。一つの体験プログラムをとっても20名の子どもは体験プログラムに参加せずに帰るので、マネージャーや管理人の立場からすれば来てくださった講師の方に対して申し訳ないという気持ちから負担感を感じられているということはあるかもしれません。プログラム数をもう少し減らせば良いのではないかという声が出ているのも把握はしています。

<岡田委員>

私は宮川小学校キッズスクエアの運営会議の運営委員をやっているのですが、この放課後子どもプラン運営委員会はキッズスクエアの各開催校の運営会議で話しあった内容を取りまとめたり話し合うための会であると考えていました。先ほどの事務局からの報告を聞く限り、この場は放課後プラン全体の話をするとう理解したのですが、キッズスクエアの運営会議を取りまとめるような会は別にあるのでしょうか。

<青少年育成課 上田>

キッズスクエアの各開催校の運営会議を取りまとめるような会はございません。各校の運営会議は学期ごとに1回、教頭先生やPTA役員の方、コミスク代表者、地域代表者、マネージャー等と青少年育成課事務局でそれぞれ3×8校の年24回開催しています。開催校によって事情が異なりますので、全体で会議をするよりは、それぞれの関係者の方にご意見をいただきながら運営するのが今現実的に一番良い方法であると考えています。

<岡田委員>

この場で各開催校の運営会議に出た話等を出して良いのかを迷い、質問しました。

<青少年育成課 上田>

運営会議の出席者としてご意見を出していただくのは問題ありませんが、この場には運営会議に出席されていない方もいらっしゃるのて、皆さんのご意見を聞きながら、この放課後子どもプラン事業について考えていきたいと考えています。

<佐々木委員長>

この会議は放課後子どもプラン事業全体のお話をする場ですので、各キッズスクエアの運営について個別にお話する場ではありませんが、例えば皆さんが事業に関わられる中で感じたことで、全校に関わるようなことがあれば、ぜひこの場で事務局にお伝えいただくことによって、事業全体がますます充実していけば良いと思います。

<青少年育成課 田中>

宮川小学校固有の問題と言えども全校にも関係してくるような問題であれば、ここで話をさせていただく意味もあると思います。

<岡田委員>

以前、宮川小学校の運営会議の時に避難マニュアルは作成しているのかとお聞きしたところ、検討しておきますという回答をいただいていたのですが、前回の運営会議でお返事をいただけなくて、本日の資料を見たら避難に関することが記載されていたので、どこか別の会で検討されたのかと思いました。

<青少年育成課 上田>

基本的なマニュアルはありますが、各校によって実情が異なりますので、少しお時間

をいただくことになるかとは思いますが、学校が作成しているマニュアルに沿った形で開催校全体や各校に合わせたマニュアルを作成していきたいと考えています。

<長谷川委員>

体験プログラムについて、子どもたちが参加してみて楽しかったものについて、また来てほしいという気持ちを伝えるようなシステムはあるのでしょうか。他にももし子どもたちの気持ちが反映できるようなシステムがあれば教えていただきたいです。

<青少年育成課 上田>

今のところそういったシステムはありませんが、子どもたちがマネージャー等に「こういうものをしてほしい」とか「この前のプログラムは楽しかった」と伝えてくることはあります。開催校が8校全て揃いましたので、子どもたちが「こういうプログラムがしてみたい」とか「こういうのをやってほしい」とか自由に意見を出せるような場を作ることができればとは考えています。

<長谷川委員>

いつも用意してもらった中で遊ぶのではなくて、プログラムに参加することが自然と他のクラスの仲間や異学年の仲間たちと一緒に遊ぶきっかけになればいいなと思っているところです。

<青少年育成課 上田>

先日、NPOアフタースクールに全スタッフ対象の1時間程度の研修をしていただきました。「プログラムをどのように作るのか」という内容だったのですが、その中で子どもたちが自分たちで考えてプログラム作りをするのはどうかという意見が出ました。また、ボランティアで来ていただいている高校生や大学生たちが子どもたちと自由遊びをするだけではなくて、自分たちで「こういう時期にこういうことをしてみたい」という企画を出してほしいとお願いしています。色々な方がキッズスクエアに関わっていただくことで、よりよい運営をしていくことができればと考えています。

<中田委員>

キッズスクエアの受付方法について、申し込み受付は青少年育成課の窓口で行って、カードは学校の先生から児童に配布されるのですよね。

<青少年育成課 上田>

学校の先生に配布いただくのは最初だけです。今年度2千近い数を事前に発行することになりますが、一校一校青少年育成課事務局が必要分を持って学校へ行って、配布依頼をしています。その後追加募集で受付をした方に対しては個別に郵送でお送りしています。ただ、私たちもできるだけ早くお届けしたいと考えているので、学校に持って行った方が明らかに早く届けられるという場合は、学校にご協力いただくこともあります。

<中田委員>

学校の先生がお配りになっていると学校で受け付けてもらえると勘違いされる保護者もお聞きしましたので、上手く線引きができれば良いなという意見を聞いたことがありました。

<長谷川委員>

そのような場合、保護者の方には教頭や担任がご説明して差し戻しをさせてもらっています。

<青少年育成課 上田>

実際保護者の方が誤って書類を先生に渡される場合もありますが、その時は差し戻しをいただいたり、直接事務局からご本人にご説明させていただいたりしています。今年新1年生の保護者対象の説明会がありますが、そのときも、キッズスクエアは学校施設を使用していますが、学校ではなく青少年育成課が行っている事業であるということをごきちんとお話する予定です。

<佐々木委員長>

学校との連携や棲み分けの部分については、校長会や教頭会の場で担当者の方からご説明されているのでしょうか。

<青少年育成課 上田>

私から校長会や教頭会の場でお話をしたことはありませんが、教育委員会で色々お話しはしてくださっていると思います。

<長谷川委員>

運営委員会で話した内容については、小学校長会で報告しています。

<野村委員>

質問が3点ありまして、1点目は先ほどお話に出ましたが、各キッズスクエア開催校の運営会議からそれぞれ代表者を出して、運営委員会を作る予定はありませんか。これは、以前からお願いしていたことですが、運営方法は各校によって異なるとは思いますが、それでも子どもたちのためにやっているということは同じなので、全校でキッズスクエアが始まった今、それぞれのキッズスクエアの問題点や成功例を共有したりいろいろ意見交換をしたりする場があっても良いのではないかと思います。

2点目は体験プログラムについて、好評だったものについては何回も実施していただきたいと思っておりますし、内容について精査していくような仕組みが出来れば良いと思っております。

3点目について、子どもたちの意見を聞くのもとても良いことだとは思いますが、一つ一つ聞いていたらスタッフの皆さんの負担が大きくなるのではないかと心配です。子どもたちも気ままなところがありますので、やはり先生方や現場のスタッフの方のご意見や、児童会等を通してきちんと精査された情報を活用することはできないでしょう

か。

<青少年育成課 上田>

1点目について。全体の会議については実際問題、それぞれの事情があまりにも違い過ぎるので、やはり物事を決めていくのは各校の運営会議であるのが現実的であると思っています。ただ、申し込み方法等は共通ですので、決まったことをスタッフのみなさんにお伝えしたり、皆さんからご意見をいただく場として開催するのは良いのではないかと思います。

2点目の精査については、体験プログラムについては毎月頼みのため、私たちは毎月あがってくるご意見等を踏まえて翌月の依頼をします。したがって、ある意味常に精査ができるシステムになっていると思います。

3点目について、現時点では大人の作ったルールを子どもたちに押し付けるような形になってしまっていますので、これは理想ではありますが、将来的には子どもたちが自分たちで工夫したりルールを考えられるような、教育的な意味も含めてできるような場になれば良いなと考えています。

<佐々木委員長>

今年度から全校揃ったからこそ出てきたご意見だと思います。ここでのご意見がそれぞれの学校に下りていくかと思っていますので、そういうことも含めて子どもたちが本当に満足して楽しめるものにしていただければ良いと思います。

それでは議題（1）「平成29年度事業報告について」事務局からお願いします。

<事務局：桂樹>

（配布資料：【資料1】に基づき説明）

<野村委員>

精道小学校の方からお伺いしたのですが、校庭開放がキッズスクエアになったことで、子どもたちが学校で自由に遊べる時間がかえって少なくなったというお話を聞いています。というのは、今までは1回家に帰って学校に行って18時くらいまで遊べたようなのですが、キッズスクエアになったことでキッズスクエアに登録していない子は16時、登録をしても17時くらいまでには帰らなければならなくなり、親としても今までは安心して学校の校庭で遊んでいたものが遊べなくなってしまい、また近くの公園ではボール遊びができないので、子どもたちの居場所が減ったというご意見が出ました。

<事務局：桂樹>

以前校庭開放は平日と土曜日に実施していて、キッズスクエアに変わったのは平日実施分のみですので、今お話いただいたのは平日に関することでよろしいでしょうか。

<野村委員>

恐らくそうだと思います。

<長谷川委員>

そのことについては小学校長会でも話が出ていました。潮見の場合、16時までであればキッズスクエアに登録していてもしていなくても子どもたちは一緒に自由に遊べるのですが、学校によってはキッズスクエアに登録している子としていない子は一緒に遊んではいけないというような制約があったりして、それは具合が悪いのではないかという意見が出ていました。恐らくそのようなルールは管理がしにくいから作っているのだと思いますが、どこの学校も子どもたちみんなと一緒に遊べるようなかたちが成立したら良いなという希望をもっています。

<守上委員>

浜風もキッズスクエアに登録している子としていない子が一緒になって遊んでいます。

<野村委員>

山手も一緒に遊んでいるので、運営方法によるのかもしれませんが。保護者の方のご意見としては、学校で遊べる時間が短くなったことを一番気にされているようでした。

<中田委員>

以前、学校は18時ぐらいまで遊んでも構わないが、見守りはしていないというお話を聞いたことがある気がするのですが、誤った情報でしょうか。

<長谷川委員>

最終下校が16時なので、子どもたちを18時まで残しているということはありません。

<事務局：桂樹>

学校教育の時間は16時までですが、以前は暗くなる直前まで、学校によって多少時間は異なりますが、17時近くまでは平日校庭開放を実施していました。保護者の方が、放課後の校庭開放が終わるまでを子どもたちが遊べる時間だという認識でいらっしやったのであれば、キッズスクエアが始まったことによって遊ぶ時間が少なくなったように感じられたということがあるかもしれません。

<佐々木委員長>

このような場合、保護者の方への周知の仕方はどのようにしていったら良いのでしょうか。

<事務局：茶嶋>

校庭開放の実施日時については、学期ごとに実施校の全児童保護者あてにチラシを作成して配布しているので、それを見ていただいたら管理人さんがいらっしやる時間帯はわかっただけだと思います。ただ、それ以外の時間については学校長の判断や行事等の関係もあるかとは思いますが、生涯学習課や青少年育成課で作成するチラシ等に

記載するのは難しいところではあります。こちらに件についてはやはり学校で先生から説明していただくしかないと思います。

<野村委員>

子どもたちの立場からしたら、今までなら1回家に帰ってから学校へ戻って校庭でボール遊びができたのに、キッズスクエアに変わったがためにそれができなくなった、放課後管理人さんがいなくなって困っているということではないでしょうか。

<長谷川委員>

なるほど。平日の放課後も以前は管理人さんがいてくださったから遊べたのに、それができなくなったと感じられているわけですね。

<金本副委員長>

潮見も以前、平日の校庭開放の時は家に帰ってから自転車で学校に行けたのに、キッズスクエアになってから自転車で行けなくなったし、おじちゃんもおばちゃんもいなくなった、という声がありました。今の子どもたちは慣れたかとは思いますが。

<長谷川委員>

そうですね。潮見の場合は校庭開放が土曜日だけになってしまいましたからね。

<金本副委員長>

子どもからしたらそういうところが嫌なのだと思います。

<野村委員>

子どもたちが自分たちで自由に工夫して遊べる時間だったのだと思います。

<長谷川委員>

以前、山手や朝日ヶ丘では「一旦帰ると遠いからそのまま学校に残って17時ぐらいまで遊んで帰りたい」という子がいました。

<野村委員>

山手の方はそうだと思います。精道や潮見は距離的に一旦家に帰ってもすぐに学校に行くことができるので、1回家に戻ってから学校で長く遊びたいということだったのだと思います。

<事務局：茶嶋>

おっしゃることはよくわかります。ただ、平日に校庭開放とキッズスクエアを両方実施するというのは政策的には難しいです。

<佐々木委員長>

今後事業を進めていく上で、子どもたちの中にはそういう考えの子もいるということ

を念頭に置いておいていただけたら良いということだと思います。

<長谷川委員>

先程のキッズスクエアのご報告の時に言えば良かったのかもしれませんが、前回当校にいる肢体不自由児に対しての対応をお願いさせていただいていたのですが、当日はトイレの付き添いや必要な時の対応をしていただいて、保護者の方も子どもの方も本当に感謝しておられました。ありがとうございました。もう一点、子どもたちの中にはてんかんの子やアレルギー持ちの子など、色々な方がいらっしゃいます。キッズスクエアではお弁当の持参率がとても高いので、保護者の方もきちんと用意はされているのですが、多くの子どもたちが集まってきた時に、幸い今まで事故は起こっていませんが、何か起こった時に「この子はこういう体質だから、こういう風に対応してあげないといけない」というような、個に応じた健康管理や緊急対応ができるようになっているのでしょうか。またそのことについてどうお考えなのかをお聞かせいただきたいです。子どもに何か変化があった場合、保護者に電話をするというような対応をされると思いますが、例えばフッと意識がなくなった時に「てんかんかもしれない」と瞬時に対応ができるのか、あらかじめ備えていらっしゃるのかを教えてください。

<青少年育成課 山崎>

そのことにつきましては過去の運営会議でも意見が出ておりまして、配慮が特に必要なお子さんについては、申込み用紙の特記事項に書いていただくようにしています。その情報をもとにスタッフにはこういう子がいるので配慮するよという事は周知させていただいています。

<長谷川委員>

夏場はお茶を持ってくる子が多いですが、例えば保護者の方にジュースを持って来させないように「キッズスクエアでは飲み物はお茶だけの対応でお願いします」といったお声掛けをしていただけるとありがたいです。

<青少年育成課 山崎>

わかりました。

<野村委員>

肢体不自由の方の対応をされたというのはとても良いことだと思いました。場合によっては当日のスタッフを増員する必要も出てくるかと思うのですが、そのような対応はされているのでしょうか。

<青少年育成課 山崎>

特にプラスで一人スタッフを付けるという対応まではしていません。保護者の方にも責任を負っていただくことになりますので、そのことについてはご登録いただく時にご説明して、ご理解いただいています。

<野村委員>

スタッフの方に保険はかかっているのですか。

<青少年育成課 山崎>

はい。

<野村委員>

ということは、スタッフご自身が何かケガをされた場合や、何かのトラブルで子どもにケガをさせてしまった場合等でも補償されるということですね。

<青少年育成課 山崎>

はい。補償されます。

<岡田委員>

校庭開放は土曜日に実施しているということですが、見守りの人がいるんですよね。

<事務局：茶嶋>

はい。校庭開放は学校の事業とは別事業なので、校庭開放事業として管理人さんに来ていただいて、事業を実施しております。

<岡田委員>

資料の集計のもとになっている数字はそこからあがってきているということですか。

<事務局：茶嶋>

傷害保険に加入しておりますので、参加している子どもたちには名簿に名前を書いてもらうようにしています。また、管理人さんには日誌を通して当日子どもたちがどんな様子であったかを記入いただいておりますので、そちらを集計させていただいております。

<岡田委員>

学校が終わった後、子どもたちは公園で遊んでいることが多いと思います。公園で遊んでいる子どもたちは本当に生き生きしていて、私たち地域の者はそれを見守っていたりするのですが、楽しんでいる中でも色々な問題が起こってくる。それにどう対応していくかということも考えなければいけないということで、自治会等があります。私はキッズスクエアの運営会議にも出席していますが、こちらの運営委員会では自治会連合会の代表として出席させていただいておりますので、地域の立場から、いろいろな意見を出させていただきたいと考えています。そして、こちらで話し合ったことが今後のキッズスクエア等で活かされる部分があれば良いと考えています。

<佐々木委員長>

先ほどキッズスクエア全体の運営会議をご提案されていましたが、そういう会

があればそちらでキッズスクエアに特化した話はできますでしょうし、この運営委員会は放課後子どもプラン事業全体について話し合う会ですので、そういうことを踏まえて、芦屋全体のことを考えて、意見を出していただけたら、より良い会になるのではないかと思います。

<岡田委員>

私の住んでいる地域の自治会では、うちの小学校区の子どもたちの様子はどうだという話を皆でしています。その時にここで出たお話ができればと思っていますし、地域には浜町メンズクラブという一つの防犯グループが子どもを見守っていますので、その見守りに対する皆様のご意見もこちらで頂戴して、反映できればと考えています。

地域の立場としては、子どもたちが帰る時間帯が17時前後なので、それに対して見守りをどうするか、子どもたちにどう声を掛けるか、あるいは声を掛けてはいけないということも含めて、検討していかなければいけないと考えています。

<佐々木委員長>

そうですね。委員の皆様はそれぞれの所属団体等の代表として出席いただいていますので、それぞれのお立場から、いろいろなご意見をいただけるのはありがたいことだと思います。ここで話し合ったことを所属団体の会議にまた持ち帰って話し合っていたり、橋渡しをしていただけたら良いと考えています。

それでは、議題3「平成30年度放課後子どもプラン事業について」事務局よりお願いいたします。

<事務局：桂樹>

(配布資料：【資料3】に基づき説明)

<佐々木委員長>

校庭開放管理人の管理業務について、民間業者へ委託する方向へ動かれているというご説明がありました。議会で通れば、来年度からそちらの方向へ動いていくということでしょうか。

<事務局：桂樹>

はい。現在は地域の方に管理人をお願いしておりまして、事務局といたしましては長年続けてくださっている方もいらっしゃいますので、来年も引き続き続けてくださるおつもりの方がいらっしゃいましたら再来年度以降の導入を考えていました。ただ、全員に確認させていただきましてところ、平成30年4月から開始して問題ないという回答がございましたので、予算が通りましたら、その方向で進めていこうと考えています。

<守上委員>

業者は決まっているのでしょうか。

<事務局：茶嶋>

これから選定させていただきます。

<中田委員>

見守りの仕方は今までと同じようにお願いされるのですか。

<事務局：茶嶋>

基本的には同じ内容でお願いする予定です。

<中田委員>

例えば、参加者が0人の場合でも管理人さんはずっとその場にいらっしゃるのですか。

<事務局：桂樹>

子どもたちは開催日の午前9時から12時までは校庭開放があると思っているので、たとえ参加者が0人の場合でも、その時間帯はその場で見守っていただく予定です。

<長谷川委員>

現在は学校で直接管理人さんとお会いして日誌を交換しながらお礼を申し上げたり当日の子どもたちの様子をお聞きしたりして、学校側も参加者の実態を把握することができます。これが民間業者になった場合、日誌等は直接生涯学習課に提出されるかと思いますが、あとからでも良いので、学校側に校庭開放がどのような状況であったかを知り得る方法があれば良いと思います。

<事務局：桂樹>

まだ業者が決まっておりませんので具体的なことは申し上げられませんが、学校側にも何らかの形で校庭開放の様子をお伝えできるよう、進めていこうと思います。

<中田委員>

今までは地域のよく知っている方々が管理人さんをしてくださっていたので、校庭開放の道具一式をコミスク室で保管されているところも多かったかと思います。ただ、これが民間業者になりますと全然知らない方が来られると思うので、コミスク室をご利用いただくのは難しいかと思います。来年度からはコミスク室を利用せず、必要な道具一式は管理人さんがその都度持ってこられる方向で進められるのでしょうか。

<事務局：茶嶋>

全く知らない方ということになるかとは思いますが、各コミスクにも少しご協力いただくことはあるかもしれませんので、そのような場合はコミスク連絡協議会で提案させていただいて、ご意見をいただきたいと考えています。

<中田委員>

コミスク室の利用を断ることはできるのでしょうか。コミスク室の中には鍵の付いていないキャビネットもありますので、万が一物がなくなったとき等にお互い嫌な思いをするようことは避けたいなと思ひまして。

<事務局：茶嶋>

その点につきましてはこれから検討させていただきたいと思ひます。今即答ができなくて申し訳ございませんが、意見として伺っておきます。

<中田委員>

お願いします。

<佐々木委員長>

業者を選定するにあたって、本日委員の皆様から出たご意見をできるだけ反映していただくということと、各学校様々な事情があるかと思ひますので、事務局には実態に合わせてしっかりとご対応いただくということで、よろしくお祈ひします。

では、議題（4）「その他」について、事務局の方からありますでしょうか。

<事務局：桂樹>

特にございません。

<佐々木委員長>

それでは、第2回放課後子どもプラン運営委員会を閉会します。

以 上